

2004年の「ベコちゃんの森」

2004年の冬は、例年に比べると雪が少なく、しかしその分冷え込みが厳しいように感じられる冬でした。

晴れた日の日中は、やんわりと暖かくなります。もちろん暖かいといっても、3~4℃しかないので、寒い時は1日中氷点下ですので、暖かく感じるのです。

屋間の暖かさで解けた雪が、夜には凍ってしまうので、春先のように雪がしまり、森の中はスノーシューなどがなくても長靴で歩くことができました。

長靴でそろそろ歩く人間とは違って、動物達は冬の間もちろん裸足のまま、雪の上を駆け抜けていきます。そんな小さな冬景色をご紹介します



【ウサギの足跡】



【キツネの足跡】



【カンボクの木】

黒姫では例年4月の終わりから色々な花が咲き始めます。そして、5月中旬にかけて新緑の時期を迎え、森は一気に姿を変えます。

ゴールデンウィーク前後は日々変化があり、とても楽しい季節です。鳥たちも1年の中で一番にぎやかになり、様々な鳴き声を聞かせてくれます。

動物達の活動も活発で、キジやキツネの姿も見られます。

植物ではフキトウやカタクリの花も春の訪れを告げてくれます。

木々の緑とやわらかな陽射しに満たされた春の黒姫は、言葉にならない安らぎと春を迎えるエネルギーに包まれていました。



【フキトウ】



【カタクリのつぼみ】

9月には整備活動を進めていくための調査に入りました。

森の中心部にコドラード(調査区)を設け、5ヶ所の定点観察地点を設定しました。

定点から林内の植物の状況を把握し、経年的に調査していくことで、季節による移り変わりを見ることができます。



【調査の様子】

秋も深まりかけた10月の森では、木々がほんの少しだけ紅葉し始めていました。

例年この頃にはすっかり秋色に染まるのですが夏の暑さの影響からか、あまり紅葉が進んでいません。



【ミズナラ】



【シンボルツリーのサワグルミ】

11月になると、落葉樹が葉を全て落し、覆い茂っていた草花は枯れ、ちょっと寂しい冬の森になってしまいました。

しかし、葉を落とした森にはたくさん光が差し込んでとてもきれいです。また、すっきりと視界が開けたため全体を良く見渡すことが出来、普段はなかなか見つけられないものも目にする事が出来ました。



【葉を落とした木々】



【落ち葉に差し込む冬の光】



【森のきのこ】



【シンボルツリー サワグルミ】



【リスの食べた木の果の殻】

そしてまた森に白銀の世界がやってきました。12月の森です。

訪れた日の前日は森に入るのが危険なほどの吹雪で、当日もスノーシューを装備しての探索。

降り積もった雪に背の低い木は姿を隠し、ミズナラやホウのような高木も雪の重みで枝をしならせていました。

それでも動物達は元気なようで、ぐるぐると走り回ったような足跡をたくさんみつけました。

そしてサワグルミも大きな冬芽を出しています。

まだまだ休む気配はないベコちゃんの森でした。



【にぎやかな足跡】



【一面雪に覆われた森】



【サワグルミの冬芽】